

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福島市立庭坂小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

所在地 〒960-2261
福島市町庭坂字愛宕堂1-1

E-mail niwasaka-e@fukushima-city.ed.jp

Website http://www.fukushima.fcs.ed.jp

幼児児童生徒数 男子157名 女子133名 合計290名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「広く世界に目を向けながら今いる地域で自分にできることに取り組むことのできる子供の育成」を活動テーマとして、ESDを環境教育の重要な柱と捉え、ESDの実践を通して世界に目を向けたり地域を認識したりする力の育成を目標とした。

具体的には、エコキャップ回収運動、花いっぱい運動、ベトナムイエンバイA校との交流、総合的な学習の時間のテーマ学習、①環境・社会問題に係わる活動、②地域との交流に係わる教育、③他国との交流に係わる学習、④地域の認識に係わる学習を行った。

① 環境・社会問題に係わる活動

全校の子供たちや地域に呼びかけエコキャップを集めた。子供たちや地域の方々はそれぞれに、決められたボックスにエコキャップを入れていった。こうして集められたエコキャップは、環境委員会が回収・集計し、送付された。そしてワクチンを購入する代金に替えられ、世界中のワクチンを受けられない子供たちに送られた。平成26年度から始まったが、平成30年3月の時点で、累計850kg、ワクチン425人分にあたるエコキャップが集められた。子供たちは物を大切にしたりごみを分別しようとする心を育てることができた。

② 地域との交流に係わる教育

6月にプランターに花を植え、学級毎に世話をしながら、プランターをどこに送るか話し合った。地域の商店やスーパーマーケット、見守り会の方の家の庭先など、日頃お世話になっている方の所へ届けて飾っていただいた。更に夏休みにも、水やりを訪れるなどして、花の世話を続けてきた。この活動を通して子供たちは、地域の方々との交流を深めるとともに、自分たちがいかに多くの人たちに支えられているかを実感することができた。

③ 他国との交流に係わる学習

平成26年度より「庭坂小学校桜通り絵画コンテスト」を開催し、描いた絵を廊下に掲示し、全校生の投票によって選ばれた絵を、ベトナムのイエンバイA校に贈っている。イエンバイA校からも絵が贈られてきており、本校の廊下に飾っている。またベトナムの留学生からベトナムの食べ物や小学校の様子について話を聞く機会を設けた。これらの活動を通して子供たちは広く世界に目を向けるとともに、ふるさと庭坂のよさを新たに認識することができた。

④ 地域の認識に係わる学習

総合的な学習の時間で、3年生が「ふるさとじまんわたしたちの庭坂～梨のひみつ～」、4年生が「地域の環境を調べよう」、5年生が「もっと知ろう！地域の食料生産～米作り～」、6年生が「学校や地域の歴史を知ろう！」の単元を設定し、地域の方々の協力を得ながら学習に取り組んできた。12月に「総合的な学習の時間発表会」を開催し、地域の方々を招き、学習の成果を発表した。子供たちは、現在の庭坂を認識するとともに、新たにこれからの庭坂についても考えるなど庭坂の未来に思いを向けることもできた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 朝の時間 休み時間)	

エ. 使用した教材 (総合的な学習の時間における地域素材)

3年 梨畑

4年 学校の周りの自然環境



5年 稲の栽培



6年 学校近くの神社



- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では環境教育の中にユネスコスクール活動を位置付けている。今年度ユネスコスクールとしての活動を開始するにあたっては、新たに活動を始めるのではなく、これまでの活動をユネスコスクールとしての活動と位置付け、そうした意識で活動に取り組むこととなった。それが前述した通りの、全校として取り組んだエコキャップ回収運動、花いっぱい運動、他国との交流活動であり、学年として取り組んだ総合的な学習の時間のテーマ学習、発表会である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

今年度の始めに、ESD教育の目標、方針、実施内容を提示し、全職員で共通理解を図った。その際、環境教育担当の主任をESD教育を統括する立場に位置付け、ユネスコ活動を推進することとした。エコキャップ回収運動など一つ一つの活動については、環境委員会や図工主任など担当者を明確にして、全職員が共通の意識でユネスコ活動に参加できるようにした。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価としては、特にユネスコ活動としての評価方法を明確にして行ったわけではないが、それぞれの活動についての教員・児童の感想からは、外国の様子を知ったり、総合的な学習の時間のテーマ学習で地域についての学習を進めたりすることによって、自分たちのふるさと庭坂のよさを再認識するとともに、楽しく充実した学習・活動の取り組めたことがうかがわれる。来年度はチェックシートを年度始めに提示し、評価事項を明確にして活動に取り組んでいきたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項2-2に対応

活動の様子・成果は、ブログの更新、花いっぱい運動を通しての地域との交流、総合的な学習の発表会、エコキャップ回収の協力の呼びかけなどを通して、発信してきた。これらを通して、地域に対して本校の活動の様子・成果を知らせることはできたと考えている。しかし、ユネスコスクールの活動として行っているということは、十分に知らせることができなかったように思う。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項2-3に対応

4年生がユネスコ協会主催のユネスコ教室に参加し、ユネスコ協会の方からユネスコの理念を話していただいたり、ベトナムからの留学生からベトナムの食べ物・遊び・学校の様子などについての話を聞いたりした。ユネスコ教室を通して、児童はユネスコの理念を理解するとともに、ベトナムの学校の様子を聞いて自分たちのふるさと庭坂のよさを再認識した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項2-4に対応

ベトナムイエンバイA校と、児童の描いた絵を贈呈し合うなどして交流している。贈られた絵は、廊下の壁面に掲示されている。児童はその絵を見て、庭坂から遠く離れたベトナムに思いをめぐらしている姿が多く見られた。イエンバイA校との交流を通して、児童は庭坂を見つめ直すとともに世界へも目を向ける気持ちが育っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項2-5に対応

エコキャップ回収運動、花いっぱい運動、総合的な学習の時間の発表会を通して、地域・保護者の学校の教育活動に対する理解は確実に深まってきた。また総合的な学習の時間のテーマ学習での地域についての学習を通して、児童も教員も庭坂のよさを再認識するとともに、高学年においては自分たちのふるさと庭坂の未来にまで目を向けようとする姿も見られるようになってきた。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成30年度も基本的には、29年度と同じように全校としての活動と各学年毎の活動に取り組んでいく予定である。エコキャップ回収運動については、これまで取り次いでくださった方の都合により、今年度で終了するので、それにかわる運動として「使い古しはぶらしの回収運動」を検討している。またこれまで児童会活動として行ってきた書き損じはがきの回収運動を、新たにユネスコスクールの活動に位置付けていくこととした。また、活動の様子を発信するにあたっては、ユネスコスクールの活動と明確に伝わるような方法を考えていきたい。